

# 白口エクスペリエンス

## 2011.7.10 鉾山町の記憶

の体験企画“白口エクスペリエンス”の呼びかけに2歳から80代まで総勢25名が集まりました。事前に一里塚“白口千軒”と旧生野町広報誌偕和から“謎の鑿痕（一部）”を資料配布し、河川公園に9時集合。墓の前を通過のスタートです。

(以下、参加者のみなさんのお話をまじえながらレポートします)

### 【猪野々昔日】

首無地蔵尊付近。鉾山の社宅群があり、かつて奥銀谷地域一にぎわったという地蔵祭では日本各地の踊り相川音頭、佐渡おけさ、阿波踊りなどの連で賑わったとか。天心道場（武道所）、弓道所、購買会、集会所、公民館、風呂場、理髪店があったそうです。地蔵尊に掲げられた昭和40年、Hさんがかかれたという由来記は秀逸。

白口川向かいには石垣のある道があり、ダイナマイトの保管場所につながっていたとか。また河川氾濫時の崩落防止の堤もあります。猪野々の集合住宅付近。第二次世界大戦時の捕虜収容所があり、近年その当時の元捕虜や縁者の方が来たそうです。

### 【薙刀の線刻を探そう！】

今回の体験企画の一つ“薙刀の線刻探し”では日差しと茂った草木で見えにくいものの金網にへばり付き岩壁面のいくつもの薙刀を皆さんで確認しました。（見やすくしようとの意見もありましたが、今回は見送り。）

しばらくして、三原地蔵尊に到着。暑い中の歩行だったので、ここに清水茶屋があったのもうなづけます。大正6年の寄進者には作畑の方もみえ、当時の交流の広さが判ります。

### 【滝を見よう！】

さらに進み、川から道が高くなったあたりの道左側に塞がれた坑口があり、その右、川向かいに滝が見えます。かつて“滝ノ下”と呼ばれた坑口、苔むした岩盤を細く流れる滝の神秘的で見事な融合です。（※坑口水抜き穴はいずれも柵、セメントで埋められています。道からは見えにくい場所にあります）



左は網の中の薙刀（なぎなた）線刻。近辺に“万治二（1659年）”と彫られている線刻もあるそうです。（昭和49年11月号）



### 《主な体験》

- 薙刀の線刻を探そう！
- 旧白口道はどこにある？
- 滝を見よう！
- 白口千軒を感じよう！

### 《参考資料》

謎の鑿あと(旧生野町偕和より)  
白口千軒(一里塚9号より)

### 【白口千軒を感じよう！】

白口に入ると無縁塔付近で急きよ、白綾の滝まで行こう！との提案があり本谷を進行。ズリ捨て場、遊里のあった辺りの女郎崩、川向の多くの石垣に400年前の“白口千軒”に想いをいたしながら白綾の滝到着。名滝は豊富な水量で見ごたえ満点。初めての方もおられたようで、猛暑のひとつき、心地よい水しぶきに癒やされた方もおかつたのでは！

しかし享和年間（約200年前）に寄進された不動明王の祀られる祠の庇（ひさし）は大きく垂れ下がり、木の橋もここ数年前よりなんとなく頼りなく、祭祀が行われなくなり久しい感じ。

その後、白口公民館で食事、短い音楽イベントを行ない随時解散。

今回、猛暑とヒルから白口区の散策が行えず、楽しみにしておられた方申し訳ありませんでした。

### 【旧白口道はどこにある？】

榊形付近で、YSさんにそこがとても栄えた場所だったことや水抜きの話、白口から金香瀬まで続く鉾床の話聞いたのち、いよいよ旧白口道探検です。江戸時代から多くの往来があった場所へは軽登山用の装備が要りそうな場所もありましたが、10数名で上ったその先で私たちが目にしたものは・・・なんと坑口付近の壁面のおびただしい線刻群。さらに東に向かう道沿いにも、薙刀と南無〇〇。それらの意味するものは何でしょうか？

この企画で一里塚“白口千軒”と猪野々の昔日、1975年頃偕和に掲載された“謎の鑿痕”さらに新たに見つかった線刻群も“鉾山町ならではの遺跡”として、見て、触れて、感じてつなげる体験になったと思います。

最後に、参加していただいたみなさんの貴重なお話、シルバー生野栗屋社長のアイスクリームの差し入れ、公民館を提供していただいた白口区のみなさん、本当にありがとうございました。